

授業概要

日本語学（概論）では、慣れ親しんだ現代日本語を中心に、古語や方言なども題材としつつ、それらを科学的・客観的な視点から分析する普遍的な言語学の知識・思考方法を学ぶための、基礎を作ることを目的とする。文学を学び論ずるうえでも、言語学の基礎的なものの考え方をおろそかにすることはできない。音響学、音声学・音韻論（セグメントおよびアクセント・イントネーション）、形態論、統語論、意味論、語用論、記号論、文字論、語彙論について講義する。※「セグメント」は子音・半母音・母音のこと。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（音声の物理学的基盤とコミュニケーションのプロセスについて）
第 2 回	音声学・音韻論（セグメントと知的意味・情的意味の関係について）①
第 3 回	音声学・音韻論（セグメントと知的意味・情的意味の関係について）②
第 4 回	音声学・音韻論（アクセントと知的意味の関係について）
第 5 回	音声学・音韻論（イントネーションと情的意味の関係について）
第 6 回	音声学・音韻論（同化、異化、異音、声門破裂音、音節、等時性、無声化など）
第 7 回	形態論（セグメント・アクセントが意味を持つプロセスについて）①
第 8 回	形態論（セグメント・アクセントが意味を持つプロセスについて）②
第 9 回	統語論・意味論・語用論（命題とモダリティから構成される文について）
第 10 回	記号論（ソシュール、パース、チョムスキーらの基礎的概念について）①
第 11 回	記号論（ソシュール、パース、チョムスキーらの基礎的概念について）②
第 12 回	記号論（ソシュール、パース、チョムスキーらの基礎的概念について）③
第 13 回	文字論・語彙論（漢字、万葉仮名、仮名、アルファベット、数字、語彙、語種など）
第 14 回	試験に備えた練習①
第 15 回	試験に備えた練習②
第 16 回	試験（筆記試験による）

到達目標

主に日本語を題材にして言語学についての基礎的な知識・思考方法を学ぶことで、人間と言語との係りや、コミュニケーションの仕組みについて、科学的・客観的・国際的に理解できるようになる。

履修上の注意

授業中に、発音・聞き取り・書き取りなどの練習をするので、遅刻・欠席すると取り返しがつきにくい。現代日本語の音声を中心としつつ、古語・方言の音声をも理解できるように、世界の言語に見られる多様な音声の一部も紹介して行く。

予習・復習

適宜、宿題を出す。その宿題に予習・復習の効果がある。

評価方法

授業中の練習課題 30%、宿題 30%、期末試験（筆記試験）40%で総合的に評価する。期末試験の受験には 3 分の 2 以上の出席が義務付けられているが、試験は全 15 回の内容が前提となるため、全 15 回、休まず出席してほしい。遅刻は 2 回で 1 回分の欠席として扱う。

テキスト

その都度、授業資料を配付するので、テキストの購入は不要である。資料をなくさないよう管理すること。次週以降も使用する資料は忘れずに持って来ること。